

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 46 週 2025 年 11 月 10 日 ~ 2025 年 11 月 16 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、インフルエンザが警報レベル継続中です。

全国・京都府全体(京都市以外)でも、インフルエンザが警報レベルになりました。

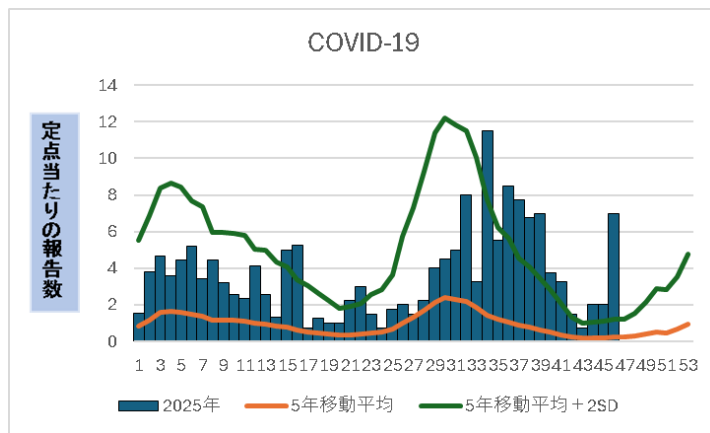
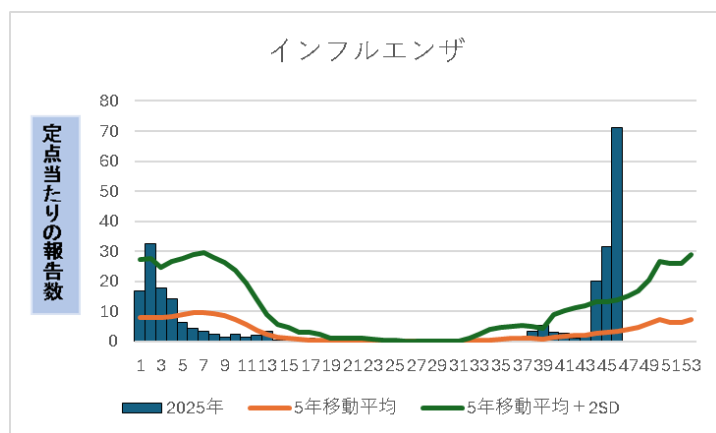
2025 年第 46 週の報告です。

○インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 71.00(前週 31.50)、京都府 41.55(前週 20.87)となっています。

○新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は南丹 7.0(前週 2.00)、京都府 2.6(前週 2.13)となっています。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたりの報告数は南丹 1.00(前週 0.00)、京都府 5.05(前週 3.38)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

京都府全体でインフルエンザが警報レベルになりました！

インフルエンザは例年、秋から冬に流行が始まり、冬にピークを迎え春ごろに終息する流れを繰り返しています。

今年(2025 年)は、京都府全体で第 36 週(9 月 1 日~7 日)に流行入りし、第 44 週(10 月 27 日~11 月 2 日)に注意報基準を超え、第 46 週(11 月 10 日~16 日)に定点あたり報告数が 41.55 となり、警報の基準である定点あたり報告数 30 を超えました。

南丹保健所管内では、第 44 週(10 月 27 日~11 月 2 日)に注意報レベルになり、第 45 週(11 月 3 日~9 日)に府内で最も早く警報レベルになりました。第 46 週(11 月 10 日~16 日)は府内で最も高い定点あたり報告数 71.00 となりました。

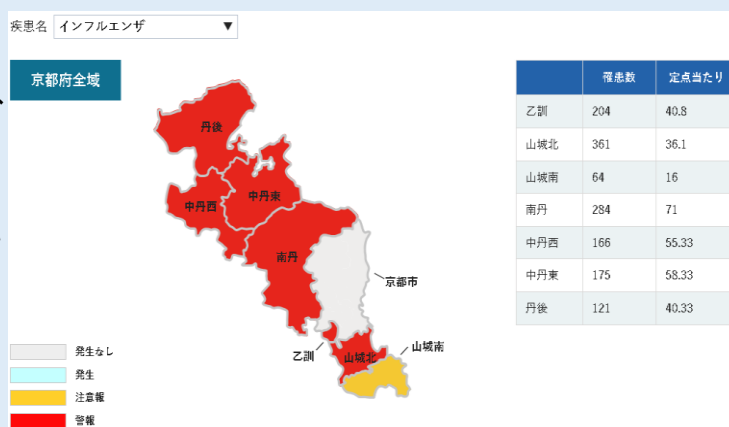
冬場にかけてさらに感染が流行する恐れがあります。

帰宅後、調理前後、食事前の手洗いを行うとともに、規則正しい生活で免疫力を高める、こまめに換気をする、早めに予防接種を受けるなどインフルエンザの予防に努めましょう。

また、年末年始は医療機関の閉診により、受診ににくい状況が想定されます。早めに常備薬等を準備しましょう。

京都府のインフルエンザ情報については、

[こちら\(京都府感染症情報センター\)](#)をご確認ください。



各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R7.46w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	71.00	↗	31.50
新型コロナウイルス感染症				7.00	↗	2.00
RSウイルス感染症				0.50	→	0.50
咽頭結膜熱	3	1		0.00	↘	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.00	↗	0.00
感染性胃腸炎	20	12		0.00	→	0.00
水痘	2	1	1	0.00	↘	1.50
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.50	↗	0.00
突発性発しん				0.00	→	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第46週報告数は444件(定点当たりの報告数:111.0)でした。 [京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)